

第5回太子町立龍田小学校特色ある学校づくり検討委員会【協議記録】

令和8年6月17日

太子町役場3F ホール

1 日 時 令和8年6月17日(水)15時00分～16時20分

2 場 所 太子町役場 交流棟3階 災害対策室(ホール)

3 委員名簿 太子町立龍田小学校特色ある学校づくり検討委員会委員(10人)

赤松 楓己(太子町 PTA 連絡協議会長・太子町立太子西中学校 PTA 会長)

朝生 有恒(龍田地区連合自治会長・龍田地区育成協議会長)

○大西 一夫(太子町立太子東中学校長)

小幡明歌音(太子町 PTA 連絡協議会副会長・太子町立斑鳩幼稚園 PTA 会長)

改野 学由(太子町立龍田小学校長)

田窪 大(太子町青少年育成協議会長・龍田地区子ども会連絡協議会長)

◎長谷 浩也(姫路大学教育学部 教授)

前田 節子(太子町立幼稚園代表・太子町立斑鳩幼稚園長)

守谷 尚子(太子町立龍田小学校 主幹教諭)

山中 一史(太子町立龍田小学校 PTA 会長)

【◎委員長 ○副委員長・敬称略・50音順】

4 出席者 委員9人(欠席:田窪委員)

事務局4人 糸井香代子(太子町教育長)

福井 照子(太子町教育委員会 教育次長)

三宅 優一(太子町教育委員会 管理課長)

徳留 辰彦(太子町教育委員会 管理課係長兼指導主事)

5 議 事 1 開 会

2 あいさつ(教育長)

3 委嘱状交付及び自己紹介

4 検討委員会の設置について

5 委員長あいさつ

6 概要説明(龍田小学校を取り巻く現状について)

・龍田小学校の現状と小規模特認校制度を実施する理由

・経過報告

・特色ある教育と適正人数・転入学の条件等について

・募集要項について(案)

・校内検討委員会の進捗状況について

・今後の予定について

7 協議(意見交換)

8 次回(第6回検討委員会)の予定の確認

9 閉 会

5 協議内容【議長:委員長】

発言者	内 容
委員長	・少し確認をしていきたいと思います。情報量が多かったため、今年(今年度)から加わられた方には、どの部分を指しているのか分かりづらい点もあったかと思います。昨年度の委員会でじっくり時間をかけて検討したのは、適正人数や入学条件です。これらは制度の骨格部分ですので、話し合いを重ね、様々な意見を踏まえた上で、最終的にこの委員会で合意に至ったという経緯がございます。 ・まず1つ目として、入学に関する定員や条件について何かご質問や、「もう少しここは検討が必要ではないか」といった点を含め、ご意見はございませんか。まずは「定員」についてご質問はありませんか。
委員	・全校で35人ですか。1学年ごとに35人ですか。
事務局	・1学年1学級で考えています。通常学級における兵庫県の基準が「35 人学級」です。その半分程度にしようという方針が決まりました。そのため、もともとの龍田小学校の児童を含めて、各学級の定員を17～18人にしようということです。
委員長	・受け入れ人数が多くなりすぎると小規模特認校制度の特性もあるため、一応「50%程度」としています。「程度」としているのは、厳密に枠を決めすぎると、1～2 人の差できょうだい関係等を分割してしまう可能性を考慮したためです。
委員	・この「取扱注意」資料の 4 ページにある募集定員ですが、こちらは間違っていないか。
事務局	・カラー刷りのものが正しい数値となります。
委員長	・特別支援学級の設置について確認します。これは、現在の龍田小学校の現有人数による判断はどこがするのでしょうか。
事務局	・最終的には県です。
委員長	・申請しても見送りということもありますか。
事務局	・あります。例えば、難聴のお子さんが入学する予定があり申請しても、認められないこともあります。他校区から受け入れる場合は、申請がその後の手続きになるため、あらかじめ新設や増設をしておくことはできません。
委員長	・他に確認しておくことはありませんか。 ・続きまして、「入学条件」についてはいかがでしょうか。送迎については「原則保護者対応」も必要だろうということで入っています。
事務局	・現在、就学指定変更で通われている方で、送迎に困っておられる等の状況は今のところありませんか。
委員	・今のところはありません。最初は車でお越しになる際の駐車場所で少し混雑しましたが、現在は落ち着いています。
事務局	・みなさん、どこで降車されていますか。
委員	・朝、「ひまはび」の場所に西はりま特別支援学校のバスが到着します。そのバスの運転手さんに東側の駐車場を開けてもらい、バスが駐車場に入った反対側に送迎車が入れるように対応しています。ただ、今後さらに人数が増えた場合は、別の対策を検討する必要があるかもしれません。

委員長	・他の条件はいかがでしょうか。優先順位については、昨年様々なパターンを検討した上で、このような形に落ち着きました。ちなみに、今年度入学された 12 名の様子はいかがですか。
委員	・非常に良い状態です。みなさん仲良く過ごされています。 ・本日ご出席の PTA 会長も、PTA 総会の際に「みなさん相当の覚悟を持って来られているので、我々も全面的にバックアップします。」とおっしゃってくださいました。そのため、保護者の方々も非常に安心されたのではないかと思います。
委員長	・PTA の会員の状況はどうでしょうか。
委員	・役員も 1 年生から 1 名、また地区として、他の校区から来られた方のために「くすのき」という地区を新たに設け、そこからもう 1 名 PTA 役員に入っています。
委員長	・教師側の立場から見られてどうですか。
委員	・思った以上にスムーズに馴染めています。1 年生が多かったこと、また該当学年が 1 年・2 年・3 年・4 年までの中学年までであったため、子どもたちが不安がる場面もなく安心しました。特に 1 年生については、小規模な環境に一度に多くの人数が入り、数的に逆転するためどうかと心配しましたが、全く問題ありません。
委員長	・まだ 6 月末ですので時間はあまり経っていませんが、聞こえてくる声として「ここが問題だ」「逆にここが良かった」といった点がありますか。
委員	・PTA 総会の後に 1 年生の保護者に集まっていたき、入学から 1 ヶ月時点での懸念点をお伺いしました。その際に駐車場の問題が出たため、校長先生や教頭先生と相談し、早急に対応していただきました。また、保護者がどのような気持ちや覚悟で来られたかもお聞きしたかったのですが、「校区の小学校に当たり前に通えるのに、6 年間の送迎を引き受けるのは大変」といった思いを直接伺えて良かったと感じています。 ・私自身の子どもも今年小学 1 年生ですが、入学時点では 3 人しかいませんでした。他は身内ばかりでした。一時は転校も考えましたが、入学後は多くの友だちができて本当に良かったと感じています。
委員長	・具体的な良さとして、少人数ならではの手厚さやカリキュラムといった点はいかがでしょう。
委員	・お聞きした限りでは、「少人数の小学校で教育を受けさせたい」「先生の手厚い指導を期待したい」という点が、説明会を経て決め手になったようです。またご家庭の事情により「送迎が可能である」という前提もあります。今後の課題はこれから出てくるかと思います。
委員長	・施設面についても、町として前向きに検討していただけたと思います。 ・校区についてはどうでしょうか。
委員	・龍田地区以外に「東保地区」があると思います。龍田地区から山を一つ越えた場所にあり、住宅が多く建っている地域です。龍田小学校までは広い歩道も整備されているため、東保地区はある程度人数がまとまれば「学校まで集団登校する」という方法も検討してみてもいいかと思います。若い世代が多く住んでいるため、今後の受け入れ人数を増やす一つの施策になるのではないのでしょうか。
事務局	・そこは課題として認識しています。自力通学が可能な距離かどうかを検証し、実現可能であれば検討を進めていきたいと思っています。

委員	・龍田小学校を中心とした距離感で言えば、遠方から歩いて通っている児童よりも近い位置にあると思います。
委員	・校区自体を変更することはできないのですか。
事務局	・校区の変更はできません。元々「校区を変更すればよいのでは」というご意見もありましたが、地域における長年の歴史や経緯もあり、校区変更は難しいという前提から議論がスタートしています。ただし、委員からご提案があったように、「一部地域からの集団登校を可能にする」という柔軟な運用は検討できると考えています。
委員	・鵜飼地区は 5 人で通学しているので、そうした規制緩和・柔軟な運用を今後検討していただければと思います。
委員長	・よろしいでしょうか。それでは、事務局より「募集要項」の確認をお願いします。
事務局	・要項の表面には、児童募集の案内、説明会日程、二次元コード、小規模特認校制度の概要等を記載しています。裏面には、募集定員や転入学の条件等を掲載しています。なお定員に関しては、今後の龍田校区内における特別支援学級の対象児童数によって変動する可能性がございます。あくまで現時点での募集定員となります。 ・申込方法と期間も記載しており、応募条件として「学校見学会またはオープンスクールへの参加」を必須としています。龍田小学校の校長先生と日程調整を行い、10 月 28 日・29 日の 2 日間で見学会を実施し、9 月 1 日～9 月 30 日の期間に二次元コードからお申込みいただく流れとなります。 ・オープンスクールについては、年間行事計画に従って、9 月 18 日に実施いたします。日程が合わない場合は、教育委員会へご連絡いただければ個別に対応いたします。 ・配布対象につきましては、事務局案として「龍田小学校以外の町内 1～5 年生児童」および「公立幼稚園・保育所の幼児」へ配付予定です。私立のこども園・保育園には掲示用として数部お渡しします。また、町の広報紙にも掲載して周知を図ります。
委員長	・日程や申込方法、条件など様々な内容が盛り込まれていますが、何かお気づきの点がございますか。 ・多くの応募があることを期待する一方、抽選になってしまう面があり難しいところです。 ・見学会、説明会、オープンスクール等の日程についても、こちらでよろしいでしょうか。
全員	(異議なし)
委員長	・次に、校長先生からご説明いただいた「学校行事」についてです。すべてを一気に確定させるのではなく、学校と相談しながら可能な範囲で実施し、カリキュラムとして育てていこうと話合ってきました。ご質問や確認事項はございませんか。 ・また、小規模特認校という特例措置として、教員配置や ALT の配置時間など手厚くしている部分について、事務局から補足説明をお願いします。
事務局	・ALT の常駐、これが一番大きな点です。他の学校では兼務となっています。また、月 1～2 回程度実施する放課後の体験活動や学習活動において、地域の方に講師としてお越しいただき、謝金をお支払いするための予算を計上しています。さらに、タブレット端末に加え、教科書の大型化に対応した天板の広い学習机を導入しており、龍田小学校の 1・2 年生に優先的に導入しています。
委員長	龍田小学校の規模で ALT が常駐するケースは、他地区でも珍しいと思います。単年度だけでなく、今後も継続される予定でしょうか。

事務局	・ALTの常駐に関しては継続予定です。
委員長	・放課後学習支援の講師派遣についても同様でしょうか。
事務局	・その通りです。教育効果が非常に高いということになれば、最終的には町全体への展開も視野に入れて検討していければと考えています。
委員長	・様々な指標があるため、その成果をどう見せていくかが重要になりますね。 ・なお、放課後学習支援はこれから本格始動でしょうか。
委員	・放課後学習支援として現在取り組んでいるのは英会話です。その他の内容については現在検討を進めている段階です。
委員長	・今年度は試行錯誤の年となりますので、当然変更点なども含めながら、来年度に向けて年間計画をしっかりと精選していく必要がありますね。 ・協議内容は以上でしょうか。
事務局	・はい。今回はここまでで大丈夫です。
委員長	・せっかくの機会ですので、ここまでの議論を踏まえてご感想やご質問があればお願いいたします。
委員	・昨年、斑鳩幼稚園で保護者アンケートを行った際、龍田地区に戻るご家庭が1世帯のみだったため、保護者の方は「自分の子だけが龍田に戻るのは不安だ」と強い懸念を抱かれていました。今年度の成果が見えてくる中で、斑鳩の保護者の方々にも「この特色ある教育を体験させてみたい」と思ってくださいればいいなと思いながら伺っていました。昨年は「中学校は西中学校に戻らなければならないのでは」という保護者の声もありましたが、そのまま東中学校へ進学できると分かり良かったと思います。現在、龍田小のALTの先生が幼稚園にも来て子どもたちと遊んでくださっており、その先生が小学校にもいらっしゃるというのは非常に良い幼小連携だと感じました。
委員	・本日初めて参加いたしましたので、趣旨やメリット・デメリット、過去の議論の経緯が分からず、意見が出しづらいというのが正直なところですが、本日は要項に関する意見交換ということですので、立場的にも意見が出しづらい面がありました。これが成功すれば、将来的には一つのモデルケースになるのではないかと個人的には思います。学校教育において独自の特色を打ち出していくことは今後ますます必要になりますし、非常に先進的な取組だと感じました。
委員	・一方で、調整区域の問題で家が建てられず人口が増えにくい点については、簡単に解決できる問題ではないと思います。気になった点として、姫路市など町外からの受け入れは想定されていますか。
事務局	・町内のみを対象としています。
委員	・将来的に見たときに、5年や10年でビジョンを描くと、町内で子どもの取り合いになってしまう懸念があります。今回の対策としては最適解だと思いますが、中長期的に見ると厳しくなる可能性があると感じました。
委員長	・大変貴重なご意見だと思います。お答えできる範囲で補足しますと、小規模特認校の趣旨やメリット・デメリットについては、昨年度かなり時間をかけて話し合いを行いました。また、中長期的な視点に立った際、「太子町内での児童の奪い合いになるのではないか」という議論も出ました。直近の3～4年というスパンではなく、さらに長期的な視点で見れば、他校の児童数も減少してくる可能性があります。その際の対応や中長期

	的なビジョンについて、事務局から補足があればお願いいたします。
事務局	・まず「龍田小学校を存続させるか否か」が最大の出発点でした。「地域は学校があつてこそ成り立ち、学校がなくなった地域は急速に衰退していく」という近隣の事例が多くある中で、「小学校を存続させる」ことが太子町の基本方針でした。そのために 1 年間かけて小規模特認校制度の検討を進めてまいりました。 ・もちろんメリット・デメリットはあります。「町内で子どもの奪い合いになるのではないか」という懸念については、他校区の方が抱かれるのも当然かと思いますが、龍田小へ移る児童の絶対数は決して多くありません。太田・石海・斑鳩の各小学校は、中長期的に見ても、即座に大幅に児童数が減少するわけではなく、単式学級になるのもかなり先の話です。まずは 5 年後を目途に、委員がご指摘されたような検証を行っていきたいと考えています。
委員	・決して否定したいわけではなく、今回の取組は素晴らしい特色づくりの機会だと捉えています。龍田小だけでなく、太田小・石海小・斑鳩小のそれぞれが独自の特色を持つ時代に入っていきべきだと考えています。保護者や子どもが学校を選択する時代になるでしょうし、そうあるべきだと思います。だからこそ、今回取り入れた「特色」をより強固なものにしていく必要があります。子ども主体の教育という点が保護者にとって最も重要ですので、保護者がなぜ龍田小を選んだのか、単に家から近いからなのか、教育内容に魅力を感じたからなのか、という動機やご意見は非常に気になります。 ・また、生活圏が行政区画を越えている点を踏まえると、太子町単独の問題にとどまらず「広域連携」が不可欠になる時代に入ると思います。姫路市やたつの市と連携し、境目に住む住民が行き来しやすい制度設計にしなければ、町自体の人口増加にもつながらないのではないかと感じました。
委員長	・そうした広域的な視点は今後必ず出てくるかと思っています。
事務局	・「学校選択制」の導入につきましては昨年度も意見として上がりましたが、「時期尚早である」という結論に至りました。ご理解いただけますと幸いです。
委員長	・昨年度から「検証委員会の立ち上げが必要だ」という議論もございました。議事録を通じてこうした議論の経過を明確に残していくことがとても大切です。
委員	・私自身、かなり小規模な小学校に通っていましたが、卒業から 3 年後に廃校となり近隣校と統合しました。当時はこういった特認校制度を知りませんでしたが、当時から特色ある教育が行われていれば状況は違っていたかもしれないと思いながら伺っていました。私の通っていた地域は中学受験をする家庭が多く、プログラミングや食育などの特色ある活動は面接等でも大きなアピールポイントになります。強みとなる特色ある教育を全面的に打ち出していけば、保護者にとっても魅力的な選択肢になると思います。
委員長	・転入された保護者の方々の思いや意見は、データとして蓄積していく必要があります。それがどのように子どもの資質・能力の育成につながり、将来どう役立つのかを示すことが選ぶ材料になると思います。
委員	・今、取り組んでいることが、将来、その子にとってどのように役に立つのかということを説明できれば、悩まれている保護者の皆さんにとって、龍田小学校を選ぶ理由になるのではないのでしょうか。 ・昨年度 12 名の方が龍田小を選ばれた時点では、まだ明確な特色カリキュラムが打ち

	出されていたわけではありませんので、「少人数の中で我が子を手厚く見てほしい」という思いが一番の動機だったはずです。
委員	・将来的に中長期で考えていくと、中学校のあり方も考えていく必要があると思います。目先の課題としては、来年度さらに多くの方に来てもらうために「情報発信の強化」が不可欠です。以前の学校評価でも「学校が何に取り組んでいるのか見えにくい」という指摘がありました。まずは情報発信が必要です。 ・また、目玉となる魅力は必要ですが、龍田小に集中しすぎて他校の児童が減ってしまうのも問題です。かといって姫路市との校区制限を撤廃すると、姫路側に児童が流出する可能性もあります。太子町としてどのように魅力をつくっていくかが大切です。 ・通学面(徒歩通学率 95%等)の課題も含めて検討が必要です。 ・現在取り組んでいる活動が、直近あるいは将来的にどう役立つのかを明確に説明できれば、選ばれる理由になると思います。
委員長	・私が指名しなかった方を中心にお話をいただきましたが、何かここで意見や質問はありませんか。
委員	(なし)
委員長	・提案されている取組をすべて一度に実施する必要はありませんが、先生方と協力しながら「今年度はこれをやろう」と進め、その成果を検証していくことが大切です。子どもや先生、保護者の感想・印象を含め、できる範囲で検証を重ねながら「第1期カリキュラム構想」のようなものをつくっていくのも良いのではないかと考えています。子どもの発言やアンケートの数値だけに頼るのではなく、多様な声を拾い上げて総合的に判断することが非常に重要です。そのためにも、新たな事業を進めると同時に、評価項目や評価方法をどのように設定するかを今から検討しておく必要があります。 ・以前から教育課程の柔軟化や指導計画の編成については議論されてきましたが、今後は各学校でこうした取組が求められてくると思います。そう考えると、現在の龍田小学校は、工夫が必要で大変な面もありますが、そうした新しい試みを最も実践しやすい環境にあります。教育委員会をはじめ皆さんが応援してくれる体制が整っていますので、地域の声、子どもの声、保護者の声を汲み取りながら挑戦してみてもいいのではないでしょうか。